

The 5th International Conference on Tube Hydroforming

第5回チューブ hidroフォーミング国際会議 (TUBEHYDRO2011)

首都大学東京大学院 理工学研究科 機械工学専攻

教授 真鍋 健一

(平成22年度国際会議等開催準備助成 AF-2010035)

キーワード: チューブ hidroフォーミング, 材料特性, 曲げ加工, シート hidroフォーミング, 新プロセス

1. 開催日時

平成23年7月24日(日)~27日(水)

2. 開催場所

日本 登別グランドホテル

〒059-0592 北海道 登別市 登別温泉町 154 番地

3. 国際会議報告¹⁾

第5回チューブ hidroフォーミング国際会議「TUBE HYDRO2011」は、日本塑性加工学会(JSTP)創立50周年記念の一環として、チューブフォーミング分科会の主催、韓国塑性加工学会(KSTP)、中国塑性加工学会(CSTP)、台湾国立中山大学および社団法人日本鉄鋼協会創形創質工学会管工学フォーラムの共催にて、上記の期間に開催された。

これは「TUBEHYDRO2003(刈谷市, 日本)」と「TUBE HYDRO2005(慶州市, 韓国)」および「TUBEHYDRO2007(ハルビン市, 中国)」, 「TUBEHYDRO2009(高雄市, 台湾)」に続くもので、第5回目となる本国際会議を開催した。

本会議は、2002年度JSTPとKSTPとの協定締結を受けて、日韓が中心となって開催してきた国際ワークショップ

「TUBEHYDRO2003」(愛知県刈谷市)の後継事業である。今回は、JSTPチューブフォーミング分科会による登別市にての実施となった。

本国際会議の目的は、全世界における産学からの研究者・技術者による最近のチューブおよびシート hidroフォーミング技術ならびに関連技術の研究成果発表を通して、今後の課題や方向性についての意見交換、情報交換ならびに国際技術交流を推進することである。

今回の参加人数は全体で78名であり前回、前々回と同程度であったが、開催国である日本以外からの参加国数は8カ国となり、その内訳は、日本40名、中国13名、台湾13名、韓国8名、香港、オーストラリア、ドイツ、および米国から各1名であった。また講演数は回を重ねるごとに増加し、今回は過去最大で、プレナリー講演(3件)と一般講演をあわせて47件であった。プレナリー講演は、まずG. Liu 教授(ハルビン工業大学, 中国)より、続いて、

Y. M. Hwang 教授(台湾国立中山大学)、三原豊教授(香川大学)より、各国のチューブ hidroフォーミング(THF)に関わる最新技術動向に関する基調講演が行われた。

2日間通して行われた本会議における講演の国内訳は、プレナリー講演3件を含め、日本19件、中国12件、台湾7件、韓国5件に続き、香港、ドイツ、オーストラリアおよび米国から各1件、計47件であった。

併設の事業として、日本鉄鋼協会の管工学フォーラムで取り組んでいる管の成形限界や成形性評価方法に関するセッション(11件)と、若手研究者や技術者14名による新たな試みのYoung Researchers Forum が行われた。

4日目の7月27日(水)には、2グループに分かれて、(株)日本製鋼所 室蘭製作所とトヨタ自動車北海道(株)において、工場見学が実施された。

本会議は、3月11日の東日本大震災の約4か月後の開催となり、また直後の原発トラブルによる放射線問題のため、本会議の開催そのものも危ぶまれたが、国内外講演者・参加者からの協力、日本塑性加工学会賛助会員、国内各学協会などのご支援を得て、結果的には、海外からも40名弱の参加があり、過去最大の講演件数となり成功裡に閉会された。本会議は、継続的にアジアを中心として、意見および情報交換、ならびに国際技術交流推進の場として役割を果たしてきていると考えられる。

なお、本会議で発表されたセレクトッドペーパーはMaterials Transactionsの特集号(2012年5月号)として14編が掲載されることになった。

謝 辞

本国際会議を開催するにあたって、公益財団法人天田財団より国際会議等開催準備助成金を賜りました。ここに同財団からの助成に対し深く感謝の意を表します。

参考文献

1) Tube Hydroforming Technology 2011 (TUBEHYDRO2011, Proceedings of the 5th International Conference on Tube Hydroforming) (2011).